

# 東部の窓 ～校長室だより～



豊川市立東部小学校

令和7年12月15日

【←ヤクルト出前授業(2年・特別支援)より】

## 本質～マラソン大会より～

12月4日、校内マラソン大会を実施しました。体育でのかけ足運動も含め、子どもたちは自分の目標やめあてに向かってがんばることで、充実感を得ていることだと思います。苦しい場面があった子もいたかもしれません、乗り越えようとしたり継続して努力しようとしたりした子どもたちのがんばりを認め、褒めていきたい思います。

運動が、特に走ることが苦手なAさんやTさんを、6年でかつて私が担任したときのことのお話をします。AさんやTさんのマラソン大会後の振り返りの内容を、数十年経った今でも覚えています。

◆あきらめない気持ちが必要だと思いました。順位がすべてではないんだな。(A)

◆大会を終えて思ったことは、持久走は自分のタイムをいかに縮めるかということに意味あるということです。(T)

陸上競技をする人にとって最大の目標は今までの自分の記録を上回ることでしょう。レースの順位も大切かもしれません、去年の大会の記録(あるいは今年最初に記録したタイム)の更新こそ、陸上で求めるこの「本質」と言えるでしょう。とするならば、2人の言葉はその本質をついています

AさんやTさんを含めたこのクラスを受けもって持久走の学習を始めたとき、「昨年の大会の記録からどれだけ短縮することができるか」ということを、クラスでのめあて・目標に設定しました。自分なりの目標タイムや短縮したい秒数を考えさせ、みんながかけ足期間で一生懸命走り続けました。その結果、たくさんの子が大幅に昨年の大会での自分の記録を短縮することができました。そしてAさんやTさんは大会の順位は最下位に近かったですが、昨年のタイムからの短縮秒数は、学級でトップクラスでした。努力の証です。

校内ではマラソン大会の1～10位の子どもに集会で表彰状が渡されました。私の学級では、レースの順位に関係なく、短縮率トップ10の子たちに自作の賞状を渡しました。「もう一つのマラソン大会」の表彰です。レースのほぼ最下位の2人が短縮率優勝や3位の賞状を受け取り、クラスのみんなから拍手を浴び、照れ臭そうに笑っていました。かけ足中つらい場面もあったと思いますが、そこから目をそらすことなく、真正面から立ち向かっていった2人の態度や取り組む姿勢こそ価値がありました。

レースをするからには1位の子もいれば、最下位の子も現れます。順位のみに一喜一憂するのではなく(順位を上げるために努力することも大事ですし、意欲を喚起させる要因にもなるので必ずしもいけないことではありませんが)、自分なりの目標をもち、つらいことから目をそらさず、課題を克服するための方法を考えがんばることが、何より大切だと思います。

本校でも大会を終え、大会当日だけでなく練習期間中を通して、どんなことに気づいて、どんなことを得たか、何が次につながるかを「自覚」できるように振り返らせました。そして、他の学習分野においても新たなめあてをもてるように後押ししていきます。それが教職員である私たちの役目だと思うからです。

### 【R7東部小マラソン大会優勝者】

1年 (800m)	男子	河合 洸太郎	3分51秒
	女子	藤園 唯禾	3分56秒
2年 (800m)	男子	岡西 皇海	3分28秒
	女子	山本 かほ	3分36秒
3年 (1000m)	男子	鈴木 快治	3分51秒(新)
	女子	岡田 優菜	4分31秒
4年 (1000m)	男子	福田 壮茉	3分44秒(新)
	女子	長谷川心美	4分01秒(新)
5年 (1200m)	男子	筒井 翔生	4分33秒
	女子	森岡 にこ	5分15秒
6年 (1200m)	男子	中村 陸人	4分23秒
	女子	渡會 杏奈	5分32秒

※(新)…歴代記録更新者



# 人権集会を開きました（12/1）講師：波多野慎次 様

（さすらいの漫談家・ふくろこうじ きみまろ）

「さすらいの漫談家：ふくろこうじ きみまろ」こと、波多野慎次様を講師としてお迎えし、人権集会を開催しました。「かみさまからのおくりもの」と題し、ユーモアを交えながら、人権を尊重することや自分も周りの人も大事にすることの大切さを教えていただきました。「ぼくにもわたしにも、そして友達にも『いのち・いいところ・ゆめ』があるから、大切にし合いましょう」という言葉に、多くの子が励まされていたようです。また、「だれもが幸せになるために生まれてきたんだよ」という言葉に、安心感をもつ子も多かったことでしょう。

波多野様は、東部小学校や全校のみなさんがきらきら輝くために、最後にこんな言葉もプレゼントしてくれました。「大切にしていってほしい5つのきらめき言葉」です。それは、「ありがとう・すごい！・一緒にやろう・だいじょうぶかい？・大好き！」この5つの言葉を胸に、互いに思いやり、誰もが大切にされる子どもたち、東部小学校になっていってほしいと願います。

以下は、6年生の感想です。

誰かの夢やいいところをふくらませる「きらめき言葉」は、友達や家族など、身近な人にも必要で大事だと思いました。言葉は同じ意味でも、言い方や使い方で相手の感じ方が全然違ってくると思いました。これからは自分が話す時、相手の立場になってみて、それを聞いたらどう思うのかをよく考えて話したいです。

私はこの人権集会で、「いのち」「いいところ」「ゆめ」という3つのおくりもの神様からもらっているということを教わりました。「いのち」は神様からもらった最大のおくりものだと思っていたけれど、自分の「いいところ」も神様からのおくりものだと知り、驚きました。また、「きらめき言葉」は、誰かの夢やいいところをふくらませることができる言葉ということも知りました。私は、これから「きらめき言葉」を積極的に使って、みんなの夢やいいところをもっとふくらませていきたいと思いました。今日から、神様からもらった3つのおくりものを大切にしていきます。

きらめき～  
ファイブ！



東部小演技派職員です

## 東部っ子・フォトギャラリー

笑顔があふれる東部っ子の活動を紹介！(OSA.T)



お話を広場を子どもたちは毎回楽しみにしています。お話を聞く隊の皆さん、来年もよろしくお願いします！！

【10月】

【12月】